

学 年 通 信

第21号

2019/10/17 発行

大阪府立今宮高等学校 3学年通信

〒556-0013 大阪市浪速区戎本町2-7-39

☎ 06(6641)2612

FAX 06(6645)7608

HP <http://www.osaka-c.ed.jp/imamiya/>

😊卒業式委員会、始動！

先日、10月11日に第1回の卒業式委員会が開かれました。委員長・副委員長を決め、委員の中で係り分担をし、卒業式委員会をどう運営していくかの相談をしました。気がつけば、卒業式まであと4か月、委員会では「よかったね。おめでとう。」と言ってもらえる22期生らしい卒業式にするための活動をおこないます。委員長と副委員長にメッセージを書いてもらいました。

◆委員長挨拶

卒業式委員会の委員長になりました2組の吉田拓未です。卒業式委員会では、卒業式予行日のお別れ会や、卒業式当日の答辞や卒業記念品、入場曲について打ち合わせをしたり、クラスへ連絡して議決をとったりすることが主な仕事です。

クラスで何回か話し合う時があると思いますが、その時に積極的に意見を出してくれるとよりよい卒業式になると思うので、みなさんで協力お願いします。

私たち22期の卒業式を最高の形で迎えるために企画、運営の中心として卒業式委員は精一杯努力しますので、応援よろしくお願いします。（卒業式委員長 2組 吉田 拓未）

◆副委員長挨拶

私は一人一人が感謝を伝えたい人に感謝を示せる卒業式になって欲しいと思っています。もちろん3年間頑張ってきた修了したという式でもあります。それ以上にその中で見守ってくれた家族や、大切で大好きな友達や部活仲間、時に親身になってくれた先生や、自分の辛いとき大変なときに支えてくれた人。自分の生活の中でこの人達に出会えて良かったという全てのの人に今までの感謝をつめ込んだ“ありがとう”を伝えたいです。そんな卒業式にするため頑張ります！（卒業式副委員長 2組 井上 桃）

◆今後の動き

今後のLHRでは次のようなことについて、クラスで意見をまとめたり、決めたりしてもらいます。

10月17日(木)7限 LHR

・卒業証書フォルダの色・お別れ会について（議決）

・24日に決めることの予告

記念品・コサージュについて（予算は、合計税込み2千円程度。案は24日に委員から出されます。）

12月19日(木)に議決することの予告

・卒業の歌・クラスごとの入場曲

・校歌（伴奏者）、卒業の歌（指揮者・伴奏者）募集

・クラスで卒業証書を受け取る人

😊進路より

●赤本コーナーを利用しよう！

2階職員室の3年コーナーに最新版の赤本（入試問題集）が置いてあります。貸し出し簿に記入すれば借りることができます。貸し出し期間は最長3日です。3日以内に必ず返却してください。過去の最新の赤本は、社会科職員室横の自習室に置いてあります。自習室の赤本は貸し出し不可です！マナーを守ってみんなで利用しよう！

●学校を利用しよう！

講習に参加する、先生に質問する、学校で勉強する、進路相談室を利用する。学校を利用しつつして合格を勝ち取ってください。

自習室（社会科職員室横・307教室）は、平日午後6時30分まで。土曜日は午前9時00分から午後4時30分まで、利用することができます。事前に担当の先生に挨拶してください。

●集中勉強会について

第2回集中勉強会（12月25日(水)・26日(木)）

「リハなくして本番なし」を合言葉に、センター模擬問題を購入して、センター試験とまったく同じ時間割でリハールをおこないます。自分の試験がない時間は自学自習の時間となります。

第3回集中勉強会（1月5日(日)・6日(月)）

入試直前、もっとも苦しい時。まわりにがんばっている人がいるからがんばれる。みんなで合格をつかむ。そんな体験をしてほしい。2日間の自学自習の時間です。

※どちらの催しも11月に入ったら案内をします。申し込んでください。

奇跡的逆転勝利！をめざしている人へ

～織田信長の場合～

桶狭間の戦いを知っているでしょうか。今から五五〇年前の戦国時代、一五六〇年(永禄三年)五月十九日、尾張（愛知県）の大名織田信長が十分の一程度の軍勢で駿河（静岡県）の大名今川義元を討ち取った日本の歴史上もっとも華々しく奇跡的な逆転劇と言われる有名な戦いです。この戦いをきっかけに東海地方に君臨していた今川氏は没落し、織田信長は天下統一に向かって急成長していくことになりました。

一五六〇年五月、今川義元は、二万五〇〇〇の大軍を率いて尾張に攻め込みます。戦っても勝ち目がないと考えた織田家の重臣たちは信長に本拠地の清洲城での籠城をすすめます。ところが信長は、わずか二〇〇〇の兵を率いて明け方に出陣します。それは誰の目にも自殺的行為に映ったはずです。一方、今川義元は、織田方の砦を落として順調に進撃し、昼頃に桶狭間に到着して昼食の休憩をとります。その間、信長は、一時の豪雨に隠れて義元の本陣に接近します。雨があがると、くつろいだ雰囲気の中、今川本陣が信長の眼下に現れます。織田軍は信長の号令によって突撃し、見事、義元を討ち取り、今川軍を敗走させたのです。

さて、この戦いは、本当に織田信長の奇跡的逆転勝利なのでしょうか。実は最近の研究によって、信長は戦いの前に戦場周辺の土豪（地元の小武士）たちの間にネットワークを作り上げて今川軍の情報を逐一確実に手に入れていたことがわかってきました。信長は土豪たちから入手した情報を分析して義元の本陣の位置をつかみ、休憩中の今川軍への急襲を決行したと考えられているのです。この戦いでいちばん多くの恩賞を与えられたのは、今川義元を討ち取った家臣ではなく、土豪を組織化し情報を収集した家臣であったと言われています。

敵の大將を討ち取ることができるかどうか、その最後の部分は運を天に任せたといえますが、そこに至るまでには、入念な準備と地道な努力をおこなった結果の勝利であったのです。つまり桶狭間の戦いは、「奇跡的逆転勝利」ではなく、「計画的逆転勝利」であったと言えるのです。もしも信長が運を天に任せて突撃していたなら、桶狭間の泥の中で首を取られていたのは彼だったかもしれません。